

編集後記

毎年、日本漢字能力検定協会がその年の世相を表す漢字ひと文字を募集し、年末に京都・清水寺での揮毫とともに発表しています。2022年に最も多く応募された漢字は「戦」とのことで、私も含めてうなずかれる方はきっと多いでしょう。協会によるとロシアによるウクライナへの軍事侵攻など戦争を意識した年であったことや、円安・物価高など生活の中での「戦い」を多くが体感したことを理由としてあげています。病院からの視点で言えば、1月の第6波から始まって数カ月おきにやってくる新型コロナウイルスとの「戦い」にはなかなか終わりは見えてきませんし、高騰するエネルギー代は病院経営を大きく圧迫していて一体どうなるのかと暗澹となってしまいます。その一方、振り返ってみると明るい「戦い」もたくさんありました。2～3月の北京冬季五輪・パラリンピックでは日本人選手たちの素晴らしい活躍がありましたし、11月・12月のサッカーW杯での日本チームの奮闘には世界中から驚きと賞賛が寄せられました。米大リーグの大谷選手は2022年も期待を上回る活躍を見せ、彼ら・彼女らの「戦う」姿は日本中に力を与えてくれました。新しい2023年がどんな年になるのか想像もつきませんが、干支はうさぎ年、ぴょんと明るい方向に跳ねる年になってほしいものです。

さて、2月号の特集テーマは「股関節鏡視下手術の適応と限界」です。浜松医科大学の星野裕信先生にご企画いただきました。股関節鏡視下手術は1980年代まではごく限られた施設でのみ行われていた手技でしたが、手術器具が進歩し、さらに2000年代に femoroacetabular impingement (FAI) に対する鏡視下手術が行われるようになって世界的に普及しました。股関節鏡により関節内の軟骨の変化や関節唇の断裂などの病態を把握できるようになり、鏡視下手術の適応も拡大されていきました。一方で、様々な合併症の報告も少なくなく、FAIの診断そのものには注意が必要です。OAや寛骨臼形成不全に対する適応にはその限界を知る必要があります。今回、FAI, borderline dysplasia, 初期OA, micro-instability, アスリート, 高齢者, 小児, AIISインピンジメント, 滑膜骨軟骨腫症, 外傷, 関節外病変など、股関節鏡のエキスパートの先生方にその良い適応と手術の限界についてご執筆いただきました。本特集を通読することによって、改めて股関節鏡の現在を知ることができます。執筆いただいた著者の先生方に心より感謝するとともに、読者の皆様の明日の日常診療に役立つことを祈念致します。

(中島康晴)

「整形・災害外科」第66巻 第2号 (2月号) 2023年2月1日発行 (毎月1回1日発行) 定価 2,970 円 (本体 2,700 円+税 10%) 年間購読料金 定価 45,980 円 (本体 41,800 円+税 10%) [年間13冊 (臨時増刊号, 増大号を含む) の誌代] [年間予約購読者に限り送料無料]	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165 [編集室直通] TEL 03 (3811) 7184 [営業部直通] FAX 03 (3813) 0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
---	--

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。